

# 静岡大学附属図書館の現状と課題

海に見える図書館(静岡館)

浜松館はテクノ&インフォライブラリーをめざす！

静岡大学附属図書館

館長 加藤憲二

# 静岡大学附属図書館が向き合う問題点

- 入館者数の減少  
H15年度:55万人 ⇒ H20年度:44万人
- 電子媒体化の中の図書館のあり方:教育との関わりの中でどのようにかわっていくか.
- 2館体制(静岡・浜松)
- 人と予算:専門職のこれからのあり方.
- 教養部改組の事後処理:静岡館と浜松館の蔵書内容の偏り.
- 利用者アンケートから  
(H21年12月～1月実施 回答者数1128人 回答率10.8%)
  - 教育と学習のための図書の不足
  - 電子ジャーナルとデータベースの拡充
  - 図書館周辺の安全性の確保

# 運営の方針と実際

- 館長からのメッセージ

<http://www.lib.shizuoka.ac.jp/koho/?kancho>

- Learning Parkへ静岡館リニューアル！  
静岡大学図書館の〈文化〉を作りますか
- 附属図書館本館の様様替え
- 見えない図書館
- 本を捨てる、10年後を考えて
- カフェ、イン ライブラリ
- ライブラリへぶらり

# 運営：2館体制のもたらす負担増

- スタッフの構成

学術情報部長(学術情報部3チームを所掌)

図書館チーム 課長1名

静岡本館:副課長1名、常勤職員11名、非常勤職員6名、派遣職員8名

浜松分館:副課長1名、常勤職員3名、非常勤職員2名、派遣職員5名

- 静岡キャンパスと静岡本館(静岡館に名称変更予定)

学部学生数:5500人、修士学生数:550人、博士学生数:60人

教員数:416名、事務職員数:193名

蔵書冊数:93万冊、施設面積:8000m<sup>2</sup>

- 浜松キャンパスと浜松分館(浜松館に名称変更予定)

学部学生数:3300人、修士学生数:750人、博士学生数:110人

教員数:272名、事務職員数:119名

蔵書冊数:25万冊、施設面積:2700m<sup>2</sup>

# 学生の運営への参加

- 利用学生モニター
  - ・利用学生モニター制度設置(H13年度から)
  - ・学生用図書選書ツアー開始(H19年度から)
  - ・他大学図書館見学(H21年度)
  - ・TAの採用を検討(H22年度)
- 学生アルバイト
  - ・夜間開館窓口業務(浜松分館)
  - ・蔵書点検業務
  - ・図書館利用セミナー講師補助

# 静岡大学附属図書館とは

- 蔵書冊数: 118万冊(23位)
  - 受入冊数: 1万2千冊(37位)
  - 受入洋書冊数: 1634冊(51位)
  - 入館者数: 43万2千人(28位)
  - 学生貸出数: 6万1千点(24位)
  - 文献複写提供件数: 3883件(37位)
  - 図書貸借貸出冊数: 1517冊(11位)
- (日本図書館協会2008年5月調査)
- 学外者入館者数: 月平均1915人(H21年度)

# 経営上の問題：予算

- 図書館予算当初配分：187, 816千円

平成21年度

- 資料費：111, 370千円

学生用図書費	28, 040千円
電子ジャーナル経費	65, 791千円
二次データベース経費	17, 539千円

電子資料費総額 94, 130千円 (外部資金を含む)
-----------------------------------

- 運営費：76, 446千円

非常勤・派遣人件費	35, 789千円	
光熱水費・通信費	12, 999千円	
時間外開館業務委託費	6, 269千円	ほか

- 外部資金ほか：25, 859千円

電子ジャーナル経費	4, 200千円	
二次データベース経費	6, 600千円	
リポジトリ経費	5, 000千円	ほか

# 研究支援1：電子ジャーナル、データベース

平成20年度

## ● 電子ジャーナルの購読

パッケージ名	タイトル数	H20契約金額(千円)	1アクセス当り単価(円)
ScienceDirect	1, 922	46, 020	290
WileyInterScience	1, 187	13, 360	588
SpringerLink	1, 229	8, 000	500
Nature	2	1, 040	184
Science	1	830	185

## ● データベースの契約

H20年度 8種 総額 17,495千円

(SciFinder 6,860千円 ~ LEX/DB 945千円)

# 静岡大学として電子ジャーナルの 高騰にどのように向かい合うか

- 購読誌、購読モデルの見直し:新モデルは地方国立大学に最も厳しい現実を突きつけてくるのではないか？
- 大学内の認識の共有:役員会、部局長へは学術情報基盤に関する経営方針の確認を求め、教員とは認識の共有をはかる(H22.2.17教育研究評議会にてキックオフ発言。目途H22.9月)
- 国立大学図書館協会の活動へのコミット:情報の集中、人材の不均衡が全国レベルではおこっている。

# 研究支援2:リポジトリ

考え方:リポジトリは生き物である

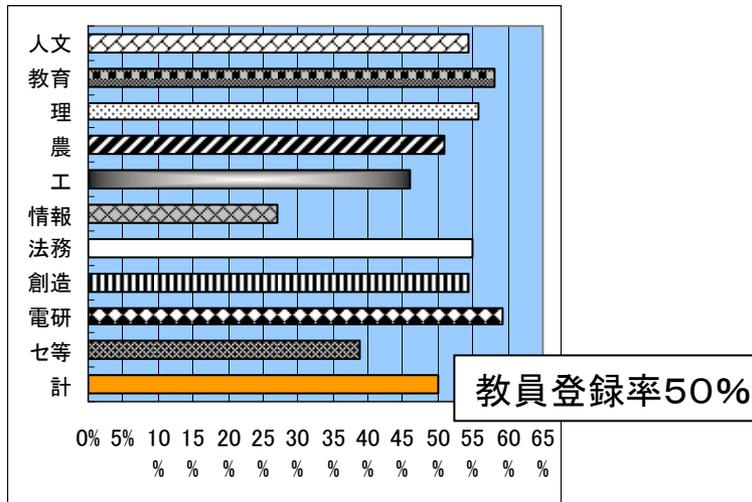
教員への呼びかけ:

初期:教授会等での概要説明

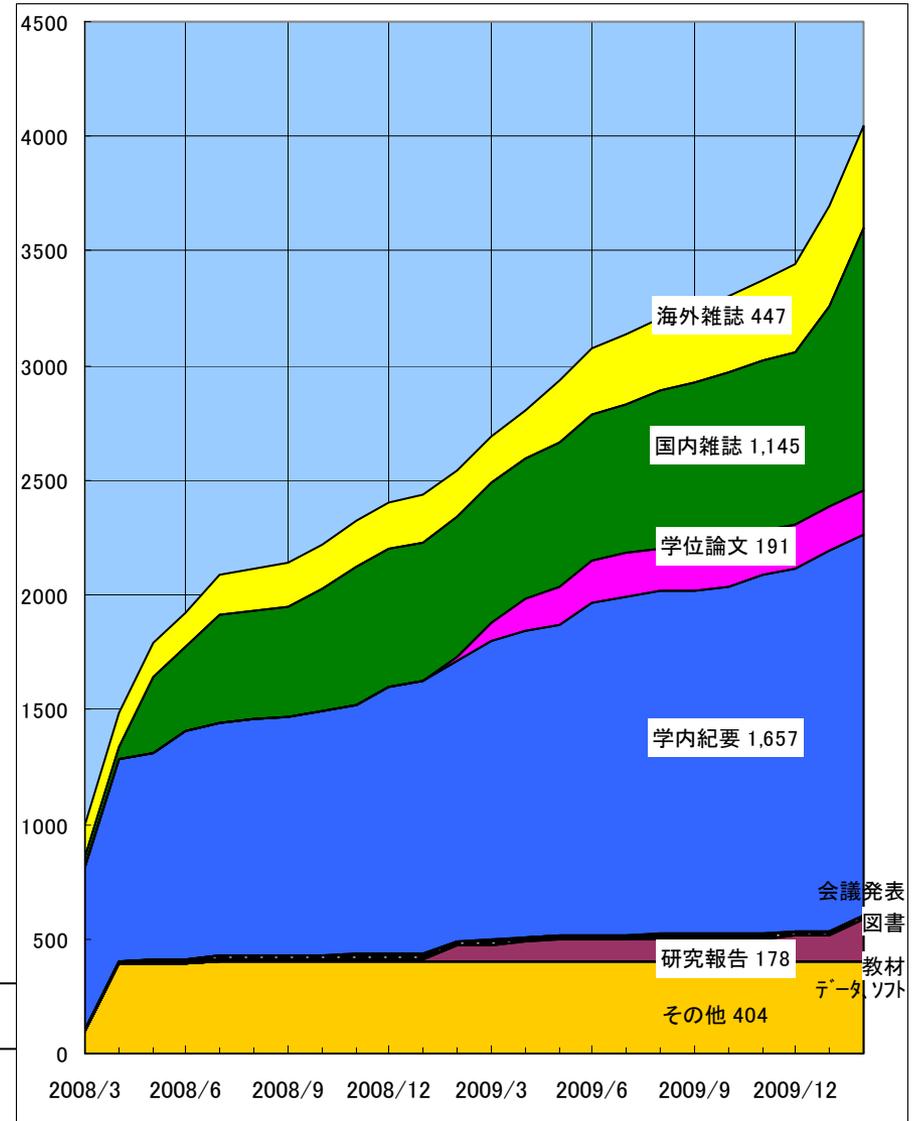
現在:・紀要等を静岡大学ジャーナルへ

- ・メールにて登録を個別に依頼
- ・登録者の要望への対応
- ・機能充実  
コメント付与、著者リンク等

## 現員教員数に対する現職教員登録率



## リポジトリ登録件数の推移(分類別)



# 教員の意見・要望を取り入れたオリジナル機能

ここからログインして、

著者による関連リンク

The screenshot shows the SURE Shizuoka University REpository interface. At the top, there is a search bar and navigation links. Below the search bar, a search result is displayed for a book by Kato, Kenji. The search results table is as follows:

著者	掲載誌名 出版日付	言語コード プレビュー
Kato, Kenji; Nagaosa, Kazuyo; Kunimaru, Takanori; Hama, Katsuhiko; Aoki, Kazuhiro	日本微生物生態学会講演要旨集 15-9月-2007	eng
Kimura, Hiroyuki; Mori, Kousuke; Hanada, Satoshi; Kato, Kenji	日本微生物生態学会講演要旨集 15-9月-2007	eng

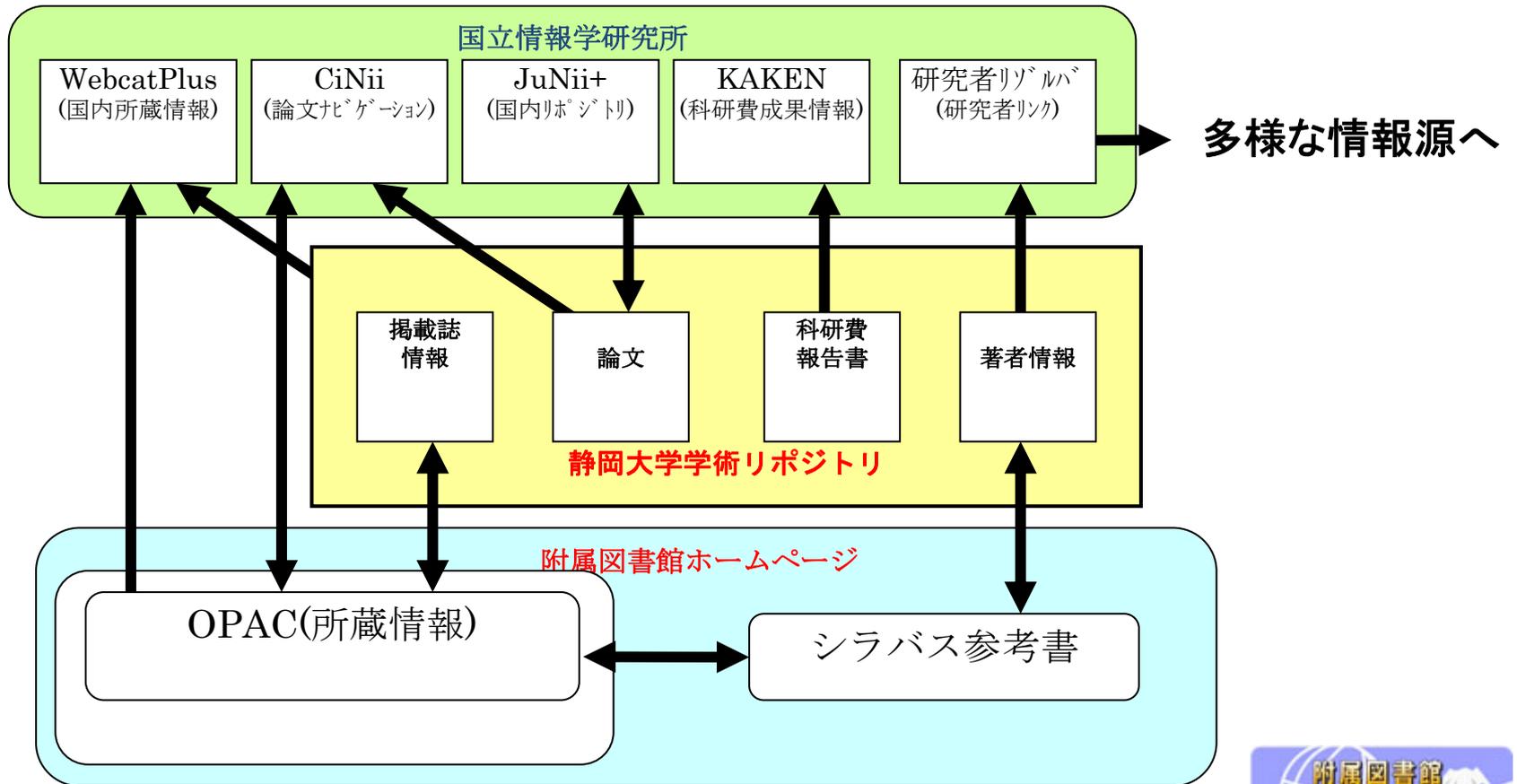
The detailed view of the book shows the following information:

タイトル: 日本最初のドイツ語お雇い教師カデルリー(1827-1874)というひと - スイスの貧農の生まれ、傭兵、家庭教師、冒険旅行家、「植物学教授」  
 その他のタイトル: Der erste Deutschlehrer an der japanischen Regierungsschule: Jakob Kaderli (1827-1874) alias Jakob Kaderly oder Jacques Kaderli  
 著者: 城岡, 啓二 (著者コメント)  
 大学南校(東京大学の前身)でドイツ語を教えたカデルリー(Kaderly)は経歴不詳の人だったが、本名は Kaderli であり、スイスに伝記が残されていることが判明して、それに基づき書いたもの。小学校卒、傭兵、経歴詐欺など、きわめて面白い人だったようである。  
 【正誤表】  
 p.152 下12行「住宅地とにも」→「住宅地にも」  
 p.168 下9行「忘れ去れ」→「忘れ去られ」  
 p.169 下6行「48歳」→「47歳」  
 p.170 上6行 seiner Hände → seiner Hände  
 p.195 下10行「カドリーニ氏の」→「カドリーニ(漢数字)氏の」  
 2009-03-07 10:29:09.32026+09  
 掲載誌名: 人文論集

著者コメントの追加

# 静岡大学学術リポジトリのシステム特徴

## 多様なナビゲーション機能



# 電子媒体による教育支援：電子ブック

- 大学院教育支援

- ・他大学との環境格差を縮める:たとえば理学系に置ける静岡大学の位置(210人入学、100人強が修士進学、うち3分の1以上は旧帝大へ).
- ・大学院生を中心とした多くの学生の利用を支援

- 導入の経緯

- ・国内外の電子ブックに関する動向を調査
- ・数回にわたり教員の意見・希望を調査
- ・利用統計を分析し購入する分野に反映
- ・2005年と2009年に刊行されたものをH21年度臨時的予算(目的積立金)で購入、今後の購入は??

- 電子ブック利用支援システムを作成中

- ・出版社が提供する検索ツールでは不十分
- ・OPACでの検索を可能にし、検索しやすい環境を整備する

# 教育支援1:図書館が担うリテラシー教育

- 職員による図書館利用セミナーH21年度実績(H13年度から)
  - ・ベシック編 新入生に対し授業の一コマを使い、図書館の使い方を指導  
参加人数:1999名 実施回数:78回 実施時間:117時間  
実施期間:約3ヶ月 各回3名で担当
  - ・アドバンス編 希望者に対し文献検索の方法等についての解説と実習  
参加人数:661名 実施回数:49回 実施時間:73.5時間  
実施期間:約1ヶ月 各回2名で担当
- 今後の課題
  - ・学生の活用度の把握が必要  
セミナー終了後に学習に活かしているかどうかの調査が必要
  - ・授業との連携が必要  
リテラシー教育は図書館セミナーだけで完結するものではない  
教員との連携によって、さらに発展的な支援が可能
  - ・図書館職員の業務的負担  
準備を含めスタッフ一人当たりの業務負担が大きい  
他の図書館業務とのバランス

# 教育支援2:窓口対応

- カウンタでの利用者支援

・出納業務(書庫から資料を取り出す)	40件/日	5分/件
・利用指導、参考調査*	10件/日	20分/件
・文献、図書を取り寄せ	15件/日	10分/件
・紹介状の発行	15件/月	15分/件
・図書館利用票の発行、利用案内	300件/年	15分/件

\* 参考調査は調査内容により、かかる時間が大きく異なる

- 利用者サービスの問題点

- ・書庫にある資料の利用方法
- ・研究室にある資料の利用方法
- ・私費による文献の取り寄せ(学生の費用負担)
- ・カウンター業務の質の保持

# 教育支援3: Learning Park 構想

- 経緯

- H20.9 館内スタッフによる検討会立ち上げ

- H20.12 附属図書館委員会で報告

- H20.12 学長、理事、事務局幹部職員に構想案を説明

- H21.2 学生モニター会議で構想案を説明

- H21.6 図書館リニューアル構想オープンの説明会で学生と意見交換

- H21.11 企画・調整会議、教育研究評議会で報告

- 改修の概要：別添チラシ参照

- これから：

- ・静岡大学の図書館スタイル(文化)を創る

- ・TAの採用を検討

- ・学生モニター参加による形づくり

# ギャラリー開設：大学の中の図書館としての機能の模索

- 静岡大学附属図書館「ギャラリー」の開設

多彩な研究成果や活動を公開、新たな交流の場に！

- ・学内の教職員の研究や作品の紹介の場として
- ・大学院生や学部学生のグループ研究や作品づくり、サークル活動の紹介の場として
- ・学内公募と図書館企画の二本立てで
- ・ギャラリートークも開催

*Gallery*

静岡大学の〈文化〉を図書館の中に作っていきたい！

# 地域の中の大学図書館として

- 市民への図書館利用証発行

- ・H15年4月 市民への館外貸出サービスを開始

- ・市民の生涯学習や調査研究を支援する大学図書館へ

- ・H20年度 利用証発行 301人 貸出件数 1,222件

- 県内公共図書館との連携

- ・H18年6月 おうだんくん(静岡県横断検索システム)参加

- ・県内公共図書館とのネットワークが強化

- ・H20年度 利用件数 230件 (受付 61件 ; 依頼 169件)

- ・静岡県立中央図書館との搬送便

- ・H20年度 個人返却 2,199件 (図書 2,179件 ; 視聴覚資料 20件)

- 市民にも開放したセミナー

- ・ライブラリーセミナー

- ・静岡の若手研究者の研究成果や地域にゆかりのある人々の文化活動を市民に紹介する

- ・H21年度 参加人数 45名 (定員30名)

# 喫緊の課題

- 人の不足；以上の活動を、たった17人（2館合わせて）の常勤図書館職員と十数人の非常勤（＋派遣）でやっている！
- キャンパス間格差の解消；  
浜松分館の増改築が必須（自前の費用でなければいけないか？）。
- 学生用図書経費を授業料の1%に；  
財政的余裕がない中で方策はあるか？
- 電子ジャーナル価格高騰への対応；  
対応策とその合意形成へ。